

エンシヨウ 延昌 加賀の人。姓は沼御氏とあるが、江沼氏の誤記であらう。天曆四年天台座主となり、天徳二年僧正と爲つた。嘗て弟子に誓つて、我命終の前三七日不斷の念佛を修するであらうといふたが、應和三年十二月廿四日から念佛を唱へしめ、翌年正月十五日沐浴更衣し、定印を結んで化した。年八十五。慈念と諡せられた。

エンジヨウイン 圓淨院 加賀藩主第五代前田綱紀の養女恭姫即ち長向連夫人の法號。詳しくは圓淨院光覺智明大姉。

エンジヨウイン 遠成院 加賀藩主第十二代前田齊廣の側室坂井氏の法號。

エンジヨウイン 圓成院 大聖寺藩主第五代前田利道側室加藤氏の法號。詳しくは圓成院諦相日保大禪定尼。

エンシヨウウヅ 婚儀蔵 ↓エンシヨウウゼイゾウシヨ 婚儀製造所。

エンシヨウウヅ 圓證寺 金澤二十人町に在つて、眞宗東派に屬する。

エンシヨウウヅ 圓照寺 河北郡海端新に在つて、眞宗東派に屬する。もと同郡倉見に在つたが、明治九年十一月今の所に轉じた。

エンシヨウウヅ 圓照寺 珠洲郡飯田に在つて、眞宗東派に屬する。

エンシヨウウヅ 圓勝寺 鹿島郡殿に在つて、眞宗西派に屬する。

エンシヨウウヅ 圓正寺 鹿島郡金丸に在つて、眞宗西派に屬する。

エンシヨウウヅ 圓正寺 鳳至郡池田に在つて、眞宗東派に屬する。

エンシヨウウヅ 圓成寺 鹿島郡萬行に在つて、眞宗東派に屬する。

エンジヨウウヅ 圓乘寺 河北郡河原市にある。山號は舟岡山。開山は眞言山伏圓乘坊圓珍であつたが、後日蓮宗に屬したものであつた。當寺は前田吉徳の側室善良院の香華院であつた。

エンシヨウウゼイゾウシヨウ 婚儀製造所 慶安四年五月下旬金澤小立野波若寺附近に鐵炮の合製所成り、八月から水車を以て製を製したが、明曆三年秋火災に罹り、翌萬治元年八月月中旬から土清水に水車を構へて銃製を扱かしめた。土清水の製藥所は廢藩の時に至るまで存続した。

エンソウキ 煙草記 一冊。堅五寸四分、横三寸三分。本文十七枚。金澤上堤町三ヶ屋板。煙草に就いての考證で、初に引用書目四十六種を載せ、本文の末尾に『于時元祿八年正月下弦日荻花堂の某、越のしらねのしらざりし道に書ぬる筆もおとし終りぬ。』とある。

エンタイキケン 蕪曇奇言 二冊。一に越のしらぬ火ともいふ。藩侯のこと以下奇説を掲げたもので、明和丁亥の秋北海白道人の序に、中林平段東先生の著とある。

エンタイフウガ 蕪曇風雅 二十冊。宮田景周著。その八卷は藩初以來文學發展の次第を論じ、學者文人の傳を擧げ、十二卷は詩文を集める。原撰は寛政三年に終つたが、後に追記を加へ、文政八年之を藩侯に獻じた。

エンダンシキカイ 演段式解 一冊。天明六年宮井安泰の著したもので、演算の解である。

エンチイン 圓智院 前田利家の弟佐脇藤八郎の女で、利家に養はれ、篠原出羽守一孝の室となつたものゝ法號。詳しくは圓智院妙淨。

エンチヨウウヅ 圓長寺 金澤木町一番町に在つて、眞宗東派に屬する。

エンチヨウウヅ 圓超寺 珠洲郡小木に在つて、眞宗東派に屬する。

エンツウイン 圓通院 大聖寺藩主第三代前田利直の法號。詳しくは圓通院管性義開大居士。

エンツウイン 圓通院 鹿島郡酒井に在る觀音堂で、寺はない。能登名跡志に、『往來より少し登れば觀音あり。當國十三番の札所に在り、圓通院といひし也。』とあり、又能登誌には『昔登山和尙行脚の時、此堂に夜を明かさざりしに、觀音の告あるに依て登山せられしとぞ。此堂より寺(永光寺)まで七町許あり。其比は教院の地なりしが、和尙一字を結び住まられたりしに、和尙の瑞徳四方に開え、程なく大佛開造立す。』と記する。

エンツウイン 圓通院 鳳至郡總持寺山内に在つて、塔頭妙高庵に屬してゐた。正保三年繼越の建立。今は存せぬ。

エンツウウヅ 圓通寺 羽咋郡牛首に在つて眞宗東派に屬する。

エンツナギ 緣繫 鹿島郡向田内の小字。

エンテイ 圓亭 金澤に於ける蕉風俳人の庵號。閑更の門人馬來先づ之を唱へ、閑更門の鹿古、鹿古門の蛙井、年風門の甘外、黄年門の櫻橋相繼いだ。

エンドウ 圓堂 鳳至郡吉池内の小字。

エンドウ 圓道 鳳至郡黒島眞宗東派福善寺の僧。高倉學寮に入り、寛政七年圓乘院宣明師範の門人に列し、次いで寮司に進んだ。

エンドウカスマ 遠藤數馬 初めて前田利常に仕へ、祿加増共に五百石に至り、開番を勤めた。子孫相繼いで藩に仕へた。

エンドウタカツラ 遠藤高貫 通稱右平。敘大夫。寶永三年養父甚四郎の祿五百石を襲ぎ、大小將に班し、御使番兼御歩支配を經、九年御歩頭に進んで二百石を加へ、遂に定番頭となり、寛延三年八月廿二日七十二歳を以て歿した。

エンドウタカノリ 遠藤高環 通稱狛次郎。數馬、老後は是三といひ、字を子温、號を紫山といつた。人持組の土玉井主税貞通の次子で、天明四年二月十五日に生まれ、寛政七年遠藤兩左衛門直烈の後を繼ぎ、世祿七百石を受け、馬廻組に班した。文化十一年作事奉行に任ぜられ、十四年普請奉行に轉じ、文政元年表小將横目となり、二年以降藩命によりて石黒信中等の加越能三州地圖作製を監し、三年表小將番頭となり、五年御側物頭に進み、また西村篤行等を督して金澤分間繪圖の作製に着手し、六年竹澤御殿時鐘の法を改め、七年職を罷められ、八年秋出現したる尾星觀測の事に従ひ、十年には地球資測を試み、十一年また新番頭となり、天保元年金澤町奉行に轉じ、同年金澤分間繪圖の功を蒙り、六年加越能三州地圖作製の事を竣り、七年御馬廻組頭兼御算用場奉行となり、弘化四年定番頭に陞り、尙御算用場奉行を兼ねてゐたが、嘉永六年古稀の齡に達したから家を子覺太郎高朗に譲り、隱居知二百石を受けた。元治元年十一月十二日歿、享年八十一。昭和三年十一月十日從五位を贈られた。高環天文・測算・圖法及び圖法等に精しく、算力よりも算る器具の製作

エンツウウヅ 圓通寺 羽咋郡牛首に在つて眞宗東派に屬する。

エンツナギ 緣繫 鹿島郡向田内の小字。

エンテイ 圓亭 金澤に於ける蕉風俳人の庵號。閑更の門人馬來先づ之を唱へ、閑更門の鹿古、鹿古門の蛙井、年風門の甘外、黄年門の櫻橋相繼いだ。

エンドウ 圓堂 鳳至郡吉池内の小字。

エンドウ 圓道 鳳至郡黒島眞宗東派福善寺の僧。高倉學寮に入り、寛政七年圓乘院宣明師範の門人に列し、次いで寮司に進んだ。

エンドウカスマ 遠藤數馬 初めて前田利常に仕へ、祿加増共に五百石に至り、開番を勤めた。子孫相繼いで藩に仕へた。

エンドウタカツラ 遠藤高貫 通稱右平。敘大夫。寶永三年養父甚四郎の祿五百石を襲ぎ、大小將に班し、御使番兼御歩支配を經、九年御歩頭に進んで二百石を加へ、遂に定番頭となり、寛延三年八月廿二日七十二歳を以て歿した。

エンドウタカノリ 遠藤高環 通稱狛次郎。數馬、老後は是三といひ、字を子温、號を紫山といつた。人持組の土玉井主税貞通の次子で、天明四年二月十五日に生まれ、寛政七年遠藤兩左衛門直烈の後を繼ぎ、世祿七百石を受け、馬廻組に班した。文化十一年作事奉行に任ぜられ、十四年普請奉行に轉じ、文政元年表小將横目となり、二年以降藩命によりて石黒信中等の加越能三州地圖作製を監し、三年表小將番頭となり、五年御側物頭に進み、また西村篤行等を督して金澤分間繪圖の作製に着手し、六年竹澤御殿時鐘の法を改め、七年職を罷められ、八年秋出現したる尾星觀測の事に従ひ、十年には地球資測を試み、十一年また新番頭となり、天保元年金澤町奉行に轉じ、同年金澤分間繪圖の功を蒙り、六年加越能三州地圖作製の事を竣り、七年御馬廻組頭兼御算用場奉行となり、弘化四年定番頭に陞り、尙御算用場奉行を兼ねてゐたが、嘉永六年古稀の齡に達したから家を子覺太郎高朗に譲り、隱居知二百石を受けた。元治元年十一月十二日歿、享年八十一。昭和三年十一月十日從五位を贈られた。高環天文・測算・圖法及び圖法等に精しく、算力よりも算る器具の製作

エンツウウヅ 圓通寺 羽咋郡牛首に在つて眞宗東派に屬する。

エンツナギ 緣繫 鹿島郡向田内の小字。

エンドウカスマ 遠藤數馬 初めて前田利常に仕へ、祿加増共に五百石に至り、開番を勤めた。子孫相繼いで藩に仕へた。

エンドウタカツラ 遠藤高貫 通稱右平。敘大夫。寶永三年養父甚四郎の祿五百石を襲ぎ、大小將に班し、御使番兼御歩支配を經、九年御歩頭に進んで二百石を加へ、遂に定番頭となり、寛延三年八月廿二日七十二歳を以て歿した。

エンドウタカノリ 遠藤高環 通稱狛次郎。數馬、老後は是三といひ、字を子温、號を紫山といつた。人持組の土玉井主税貞通の次子で、天明四年二月十五日に生まれ、寛政七年遠藤兩左衛門直烈の後を繼ぎ、世祿七百石を受け、馬廻組に班した。文化十一年作事奉行に任ぜられ、十四年普請奉行に轉じ、文政元年表小將横目となり、二年以降藩命によりて石黒信中等の加越能三州地圖作製を監し、三年表小將番頭となり、五年御側物頭に進み、また西村篤行等を督して金澤分間繪圖の作製に着手し、六年竹澤御殿時鐘の法を改め、七年職を罷められ、八年秋出現したる尾星觀測の事に従ひ、十年には地球資測を試み、十一年また新番頭となり、天保元年金澤町奉行に轉じ、同年金澤分間繪圖の功を蒙り、六年加越能三州地圖作製の事を竣り、七年御馬廻組頭兼御算用場奉行となり、弘化四年定番頭に陞り、尙御算用場奉行を兼ねてゐたが、嘉永六年古稀の齡に達したから家を子覺太郎高朗に譲り、隱居知二百石を受けた。元治元年十一月十二日歿、享年八十一。昭和三年十一月十日從五位を贈られた。高環天文・測算・圖法及び圖法等に精しく、算力よりも算る器具の製作